

「第 58 回雲南懇話会」開催のご案内

— 雪・岩・雪氷、暮し / 夢・好奇心・探求心 —

雲南懇話会代表代行 山岸久雄

第 58 回雲南懇話会を下記のとおり開催致します。「雲南懇話会」は、中国雲南省の最高峰・梅里雪山（6,740m）を中心とする「雲南・チベット地域」、及びその周辺地域を総合的に研究し、学ぶことを目的に、2004 年 12 月に発足し、今年で 19 年目を迎えました。その活動はホームページ <https://www.yunnan-k.jp> をご覧ください。

記

1. 日時：2023 年 11 月 19 日（日曜） 講演会 13 時～16 時 40 分、茶話会 17 時～19 時
2. 場所：国際協力機構（JICA）市ヶ谷ビル <https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/about/access.html>
講演会：国際会議場（同ビル 2 階）、茶話会：大会議室（同ビル 2 階）

3. 講演会の内容 <講師、演題、講演の順序など変更ある場合は、ご了承をお願い致します>

13 時 00 分～13 時 05 分

「開会、連絡事項等」 雲南懇話会代表幹事、国立極地研究所名誉教授 山岸 久雄

13 時 05 分～13 時 55 分

①「日本初の公募登山隊を組織してから—その 20 年の歩み」
～国際山岳ガイドとなった経緯と公募登山隊の歴史について～

国際山岳ガイド、(公社)日本山岳ガイド協会理事、カモシカ同人 近藤 謙司

14 時 05 分～14 時 55 分

②「中国南部貴州省の少数民族の人たちとその生活—2019 年の撮影行」

金沢大学WV-OB、JAC、横断山脈研究会、JAMC 長岡 正利

15 時 05 分～15 時 55 分

③「雪と氷にすむ生きものたち—雪氷生態学への招待」

千葉大学大学院理学研究院・教授 竹内 望

16 時 05 分～16 時 20 分

質疑応答（質問は質問票に記入し、休憩時間に司会者へ提出下さい）

16 時 20 分～16 時 40 分

総括トーク 雲南懇話会代表・筑波大学名誉教授 安仁屋 政武

4. 講演会参加費： 一人 2,000 円。 但し、学生は無料
茶話会参加費： 一人 2,500 円。 但し、学生は 1,000 円

5. 参加申込

今回、Google フォーム <https://forms.gle/8RyKrEBNrFvam2Ao8> で申込を受付ます。

上記の申込がうまくいかない場合は、info * yunnan-k.jp 宛メールでお申込みください（SPAM メール防止のため@を伏せ字 * にしています）。その際、講演会、茶話会、それぞれについて、参加の有無をご明示ください。

1. 「日本初の公募登山隊を組織してからーその20年の歩み

～国際山岳ガイドとなった経緯と公募登山隊の歴史について～

国際山岳ガイド、(公社)日本山岳ガイド協会理事、カモシカ同人 近藤 謙司

高校生時代にJECC根岸知の門下に入り、1983年に今井通子を隊長とするカモシカ同人冬季チョモランマ北壁隊に参加。以来、カモシカ同人としての遠征登山に参加すると同時に国際山岳ガイドへの道を進む。大学生時代より今井通子事務所に勤務し、その後に成蹊大山岳部OBでJAC青年部の代表でもあった磯野剛太が経営するアトレ Streck に転職し、世界の山岳地域における旅行業の在り方を学ぶ。

1998年に遠征登山を視野に入れた旅行会社アドベンチャーガイドズを設立し、モンブラン・マッターホルン・アイガーなどのヨーロッパアルプスクライミングに加えて、南米・アフリカ、ヒマラヤの6000mをご案内。2002年秋季チョーオユー公募登山隊を日本で初めて組織し全員登頂。2004年には春季チョモランマ、その後にそれに準じた高峰を含むヒマラヤ8000mの公募登山、セブンサミッツなどの登山ガイドを主催。

なぜクライマーではなく山岳ガイドの道へと進んだのか。また海外トレッキングや国内登山ツアーだけではなく、ヨーロッパアルプス登頂・公募登山の道へと進んだのか。その道のりの厳しさと業界の先輩方やクライマーとガイドとの葛藤。山岳ガイドへの道と世界の公募登山業界へ進出する背景、登山業界の時代の流れ、今後の活動展開について解説するとともに、今現在の山岳ガイド業界、登山関係業界の諸問題について、日本山岳ガイド協会理事・全国山の日協議会運営委員としての立場から概説する。

2. 「中国南部貴州省の少数民族の人たちとその生活ー2019年の招待撮影行」

金沢大学 WV-OB、JAC、横断山脈研究会、JAMC 長岡 正利

中国の貴州省は、雲南省から東方の湖北省に向かって低くなる、標高 1000m前後の、雲貴高原と呼ばれる起伏に富んだ山地になっています。貴州省の広域には古生代の石灰岩が分布して、中国有数のカルスト地帯(中国南方カルスト)となっており、一部は世界遺産に登録されています。大きな平地がないことから、「地に三里の平地無し」と言われ、全域が亜熱帯高原であるため、極端な暑さ寒さはないものの、降水量は多く、晴天の日が少ないことから、「天に三日の晴れ無し」。僻遠のこの地は、昔は貧しかったがゆえに「人に三銭の金無し」。すばらしい自然に恵まれ、近代化進展の中での心暖かな人達の地です。

貴州省の人口は約 3856 万人で、漢族が 64% (約 2637 万人)。少数民族で多いのは苗(ミャオ)族 463 万人で、以下、布依(ブイ)族 308 万人、侗(トウ)族 193 万人と続きます。省面積の 1/2 以上が少数民族の自治区域となっています。[以上の統計データの出典は、2022 年・中文版「維基百科」など。] 秘境の名の高い貴州ですが、省都・貴陽は昆明などからの全国高速鉄道網に組み込まれ、全国土に広がる五縦七横の国家級高速道路のほか、省級の高速度もあって、小規模聚落にも舗装道路が通じています。

ここでは、省都・貴陽市に加えて、6つ少数民族地の人たちと、その生活を紹介します。なお、民族が同じでも、その聚落(寨;村)が違えば、人々の装いなどは違うのが普通です。

3. 雪と氷にすむ生きものたち 雪氷生態学への招待

千葉大学大学院理学研究院・教授 竹内 望

極地や高山に分布する積雪や氷河は、低温で過酷な環境であるため長く生物は生息できない場所と考えられて

きた。しかしながら、このような環境にも、近年多様な生物が生息していることがわかってきた。例えば、昆虫やミジンコ、ミミズ、クマムシなどの無脊椎動物や、光合成で繁殖する微生物である藻の仲間、さらに生物の遺骸や有機物を分解するバクテリアなどである。これらの生物は、低温環境に適応した特殊な生物で、雪氷生物と呼んでいる。

雪氷生物は、積雪や氷河上で互いに食う食われるの関係を持ち、独立した生態系を作っている。世界でも有数の豪雪地帯である日本列島は、雪氷生物の宝庫である。3月から6月にかけての雪解けの時期には、雪の上を歩くセッケイカワゲラや、雪上で繁殖する藻類による赤雪現象などがみられる。ヒマラヤや北極、南極の氷河には、それぞれ地域特有の雪氷生物が生息している。

現在、地球温暖化により世界各地の積雪や氷河が減少している中、生息場所を失う雪氷生物は最も絶滅の危機にある生物といえる。また雪氷生物は、単に雪氷上の珍しい生物というだけでなく、生物そのものが極地や高山の環境に強く影響していたり、地球外生命探査のモデル生物となることもわかってきた。日本の雪山の調査から始まり、世界、宇宙の研究にまで広がった、雪氷生態学という新しい学問の世界を紹介する。